

令和元年6月19日現在

機関番号：32652

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02508

研究課題名(和文) アメリカ文学におけるホモエロティックな欲望のインターテクスチュアリティ研究

研究課題名(英文) A Study of Intertextuality of Homoerotic Desire in American Literature

研究代表者

本合 陽 (Hongo, Akira)

東京女子大学・現代教養学部・教授

研究者番号：90190264

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：20世紀中盤に活躍した一群のアメリカのゲイ作家たちは相互に交友関係を持つが、彼らのテキストにもインターテクスチュアルな関係がある。その関係を考察することで、ホモセクシュアリティが可視化する時代にホモエロティックな欲望がどのようにテキストに埋め込まれているかを解明する。この目的のために、ゴア・ヴィダル、トルーマン・カポーティ、ジェームス・ボールドウィン、クリストファー・イシャーウッドおよびテネシー・ウィリアムズの原稿などのコレクションを持っている図書館で調査および資料収集を行い、関係を考察するための見取り図を作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ゴア・ヴィダル、トルーマン・カポーティ、ジェームス・ボールドウィン、クリストファー・イシャーウッドおよびテネシー・ウィリアムズの伝記的な意味でも相互関係は様々論じられてきているが、彼らのテキスト間の影響関係は体系的に論じられて来ていない。そこに光を当てる研究に向けての資料を収集でき、それにより関係を論じる方向が決まってきたことは、日本におけるアメリカ文学研究のみならず、アメリカ本国に対しても発信する意義のある研究が端緒についたとして評価できる。

研究成果の概要(英文)：A group of American gay writers of the mid twentieth-century had the interaction among them, so their texts also have intertextual relationships. By considering the relationships, the way how homoerotic desire has been embedded in their texts in the age of homosexuality becoming open will be explicated. For the purpose, the manuscripts of Gore Vidal, Truman Capote, James Baldwin, Christopher Isherwood, and Tennessee Williams have been researched in their special collections and the materials have been collected, which enabled me to make a blue-print of the relationships.

研究分野：アメリカ文学

キーワード：ホモエロティックな欲望 インターテクスチュアリティ 20世紀アメリカゲイ作家 Gore Vidal Christopher Isherwood Truman Capote James Baldwin Tennessee Williams

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

- (1) 本研究開始前、19世紀後半から20世紀初頭のアメリカ人作家によって書かれたテキストに見られるホモエロティックな欲望について、『絨毯の下絵 ―十九世紀アメリカ小説のホモエロティックな欲望』(研究社、2012年)を発表し、Henry Jamesを中心とする3名の作家のインターテクスチュアルな関係を第一部で論じ、他の何名かの作家のテキストに見られるホモエロティックな欲望を隠蔽と解放をキーワードに第二部で論じた。
- (2) その研究成果を出発点に、2冊目の著書のトピックとして20世紀のゲイ作家に見られるインターテクスチュアルな関係を分析・考察するプロジェクトを立ち上げようと考え、構想を練り始めた。
- (3) 2014年度に研究休暇を取得でき、ハンチントン図書館にて“Christopher Isherwood Papers”の調査を行い、その折の成果とし得られた初期草稿と出版されたテキストとの比較を通してIsherwoodがアメリカで執筆したゲイ男性を描く*A Single Man*を論じ、論文“The Making of Christopher Isherwood’s *A Single Man*” (2015)を執筆した。この研究が上記プロジェクトのスタートを切るものとなり、プロジェクトを推進するための研究として、本研究を構想した。

2. 研究の目的

- (1) 20世紀中盤に活躍した一群のアメリカのゲイ作家たちは相互に交友関係を持つが、彼らのテキストにもインターテクスチュアルな関係がある。その関係を解明することが大きな目的である。
- (2) ホモセクシュアリティが可視化する時代にホモエロティックな欲望は逆に抑圧されていくことになるが、インターテクスチュアルな関係を分析することにより、ホモエロティックな欲望がどのようにテキストに埋め込まれているかを解明することができる。その考察がもう一つの目的である。
- (3) 具体的には、ゴア・ヴィダル、トルーマン・カポーティ、ジェイムス・ボールドウィン、クリストファー・イシャーウッドおよびテネシー・ウィリアムズのテキストが持つホモエロティックな欲望と、彼らのテキストのインターテクスチュアルな関係を考察する。執筆時の原稿など、未出版のコレクションを持っている図書館で調査および資料収集を行い、実証的にテキストを分析することを目指す。

3. 研究の方法

- (1) 作家研究や、作家同士の関わりは出版されている伝記的な研究で知ることができるが、彼らによって書かれたテキスト自体を比較する場合、出版されたもののみを対象とする研究では限界がある。しかし、まずは従来の研究成果を踏まえる必要がある。
- (2) 従って本研究は、これまで個々の作家に注目して行われてきた伝記的研究、もしくは作品研究の成果を整理することの一つには行う必要があり、そのための資料を収集する必要がある。また、伝記的な事実に着目し、作家同士の関係を論じる研究成果を把握する必要もある。
- (3) その上で、本研究の独自性は、拙論“The Making of Christopher Isherwood’s *A Single Man*”で行った初期草稿との比較などにより、インターテクスチュアルな関係を解明することにある。
- (4) よって、本研究では比較するための草稿を調査し、入手する必要がある。そのために、Gore Vidalについてはハーバード大学のホートン図書館に整備された“Gore Vidal Papers”を、Truman Capoteについてはニューヨーク公立図書館のコレクション、“Truman Capote Papers”を、James Baldwinについてはイェール大学、パイネッキ図書館の“James Baldwin Early Manuscripts and Papers”を、Isherwoodの他の作品についてはハンチントン図書館を訪れ、“Christopher Isherwood Papers”の追加調査を行い、初期草稿や未出版の資料を収集することにした。なお、ハンチントン図書館から日帰りで行くことのできるカリフォルニア大学ロサンゼルス校に“Williams Papers”があることが判明したので、これも調査した。

4. 研究成果

- (1) 出版されている資料を収集し、作家に関する情報などをある程度整理した。
- (2) 図書館のコレクションを調査した上での資料の収集については思った以上の収穫があった。Gore Vidalについては、*The City and the Pillar*を題材に以前論文を執筆しているが、改訂版を執筆する際、初版に手を入れた経緯のわかるテキストや、その後の改訂作業時の草稿が見つかった。これを参考に以前の論文を書き直す予定である。また、性転換を主題に持つMyra Breckinridgeおよび続編Myronについてもいくつもの段階の原稿を手に入れることができた。本研究を含むプロジェクトの成果として、普通の男性としてのゲイ男性を描く冒険を*The City and the Pillar*で犯したVidalが、次はトランスジェンダーを題材に新たな冒険を犯すことになる経緯の解明を計画しているが、その成果を期待できる資料を入手することができた。また、作品に対する一般読者からの反応などを示す手紙類も豊富に入手できたことも収穫である。
- (3) Truman Capoteについては*Other Voices, Other Rooms*および*Breakfast at Tiffany’s*の手書き原稿や手紙などを手に入れることができた。James Baldwinのコレクションの場合、第1作目の長編*Go Tell It on the Mountain*や*Another Country*に関する原稿などを入手できた。Isherwood

については、すでに調査を済ませている *A Single Man* 以外のアメリカに渡ってから執筆した作品、*The World in the Evening* や *Down There on the Visit*、*Christopher and His Kinds* に関する原稿や未出版の講演原稿などを中心に資料を収集することができた。現在、Capote の *Breakfast at Tiffany's* 論を計画しているが、Isherwood のテキストとの関係を解明する資料として期待できる。

(4) なお、これらの膨大な資料は iPad を用いて写真に撮り、撮った写真は項目ごとにファイルとして整理した。

(5) 初年度の調査に基づき、本研究の見取り図を示す発表をアメリカ文学会東北支部にて行った。

<引用文献>

本合陽、欲望の三角形とインターテクスチュアリティの可能性、東北アメリカ文学研究、第41号、2018、17-47

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計1件)

本合陽、欲望の三角形とインターテクスチュアリティの可能性、東北アメリカ文学研究、査読無、第41号、2018、17-47

〔学会発表〕(計1件)

本合陽、欲望の三角形とインターテクスチュアリティの可能性、日本アメリカ文学会東北支部、2017

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年：

国内外の別：

○取得状況(計 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号(8桁)：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。